

【大阪】大ト協海コン部会(山口与嗣雄部会長)は14日、大ト協で役員会を開き、今後の役員会運営や夜間パトロールの実施結果、台風21号の海コン輸送に関する被害状況などについて協議した。

今後の役員会運営について、3か月に1回の開催とする。12月には忘年会を兼ねた役員会を7日(場所は未定)に開催することとした。

夜間パトロールの実施結果について、大阪地区合同パトロールを10月12日に実施し、南港地区で14台、舞洲地区で

大ト協海コン部会 役員会 放置車両の撲滅へ

トレーラ46台(うちトラクタ連結5台)が現認された。不法放置車両の中にはコンテナターミナル前に順番待ちのため、放置車両が存在している、適正に事業を運営する会員事業者の競争の妨げになる。また、来年4月以降の調査を実施し、現状で放置車両に対しては、適正化委員会ではヤリングを行い、事情調査などを行うとともに、繰り返し放置を続ける事業者にはペナルティーなども考えていくとした。放置車両については過去に自動車を追突し死亡

事故なども発生しており、また、海コンコンテナについては実入りコンテナも存在し、危険物などを積載して追突などの事故が発生すれば、消防活動でも中身不明であることから重大事故・災害につながるかねないため、関係行政にも協力を求めている。放置車両の撲滅に努めることとした。

台風21号による海コン輸送に関する被害状況アンケート結果では、車両被害ではトラクタ・17社29台、トレーラ・12社94台、コンテナ・11社14本、その他・96万円の被害。被害額は事業施設・19社8502万円、車両・22社1億831万円、ターミナル閉鎖および不稼働車両による売り上げ減などの逸失利益・26社9227万円、フリータイム・コンテナ保管料・ターミナル時間外搬出などのターミナル費用・19社967万円、従業員の車両や物品の損害・9社2219万円、会社の物品の消失・破損・9社1625万円、台風通過後の廃棄物処理や清掃費用・9社263万円、その他・7社2856万円。



また、これに関連し、台風通過後に多大な渋滞・滞留が発生したこと、三役は大阪市港湾局と面談し、現在滞留・渋滞で待機時間が3時間から4時間発生し、海コン業者の収益を大幅に低下。さらに本来なら発生しない保管料や空コンテナ返却延滞金は海コン業者が負担するなど、大きな経済的ダメージが発生している現状を説明し、台風被害のアンケート内容を提出した。京浜地区ではターミナルでは7時間から8時間の待機時間が発生したことで、海コン業者のボーイックトも行われ、待機時間が1時間から2時間に短縮された事例も報告し、今後は阪神間でも同様の事も起きかねないことなども報告して対応を強く求めたようだ。(佐藤弘行)